



す



め

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ
コミュニケーションマガジン

KEIO
UNIVERSITY
HOSPITAL
.....
Communication
Magazine

Vol. 26

November 2025

ご自由に
お持ちください

革新と信頼を礎に、

患者さんに安心と希望を届ける病院を目指します

2025年10月1日から慶應義塾大学病院は新しい執行部でスタートいたしました



慶應義塾大学病院の理念

患者さんに優しく患者さんに信頼される患者さん中心の医療を行います

先進的医療を開発し質の高い安全な医療を提供します

豊かな人間性と深い知性を有する医療人を育成します

人権を尊重した医学と医療を通して人類の福祉に貢献します

広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える
福澤諭吉の大ベストセラー『学問のすゝめ』に因んでいます。

患者さんと病院で働く人のために 革新と信頼を両立できる病院にしたい



第33代病院長 **福永 興壺**
ふくなが こういち

本年10月1日付けで、呼吸器内科教授の福永興壺が病院長に就任しました。今回は福永病院長が目指す慶應義塾大学病院について語ります。

——慶應義塾大学医学部に入学した頃はどんな医師になりたかったですか？

自転車に乗って地域の患者さんを診て回るような医師になろうと考えていました。心境が変わったのは研修医の時に慶應義塾大学病院で素晴らしい先生方に会ったことがきっかけでした。特に当時の呼吸器内科は人数が少なかったものの、一人ひとりの先輩医師が患者さんに真摯に向き合い、チームで協力して診療にあたる姿勢に強く惹かれ、呼吸器内科へ進むことを決めました。

——呼吸器内科は感染症にも対応しなければなりません。コロナ禍で印象に残っていることを教えてください。

まだ教授になって半年ほどの時期でしたが、当時の北川病院長にコロナ診療チーム構築の全権を任せていただきました。ただ、未曾有の危機に立ち向かうには呼吸器内科だけでは対応しきれません。そこで軽症・中等症・重症のチームに分け、すべての診療科が参加する体制を作り、中等症から重症者を呼吸器内科が中心となって診療を担う組織図を描き、実行しました。

大会議室で「コロナ診療をやる」と宣言した時は涙ぐむ医師もいました。それは決して大げさな反応ではなく、当時全員が命がけの気持ちだったんだと思います。同様にすべての診療科が一丸となって協力してくれたことに、今も深く感謝しています。困難に直面しても全員で協力して乗り越える、コロナ診療は慶應の気風である「社中協力」の精神が存分に発揮された象徴的な出来事だったと思います。

——病院長補佐や副病院長として、経営面で注力してきたことは何でしょうか？

医師の働き方改革です。少し前まで医師が一般の勤労者と同じように勤務することは非常に困難でした。しかし、それでは一人ひとりの負担が過大になってしまいます。働き方を改善するために、まずは医師に労働基準を理解してもらい、同時に患者さんにも我々の新しい働き方を理解してもらうように努めました。双方の意識を少しずつ変えていくことが重要だと考えています。

また院内のタスクシフトとDX（デジタルトランスフォーメーション）も推進。各職種が協力しながら業務分担を見直し、ルーティン業務についてはデジタル化によって作業時間の短縮を図れるように現在も継続して進めています。

——最後に、病院長としての抱負を教えてください。

慶應義塾大学病院は「診療・研究・教育」を使命として社会に貢献して

きました。患者さんに寄り添い、新しい知を生み出し、次世代を育成する点は不変です。その上で、働き方改革やDXのような取り組みは他の病院にもシステムを共有し、日本の医療全体の発展に寄与したいと考えています。今後はAIの導入やグローバルな研究活動、人材交流などさらに革新を推し進めながら、これまで通り患者さんと慶應義塾大学病院で働く人たちに信頼される病院にしていきたいと思っています。

病院執行部

病院長 福永 興壺	副病院長 戸田 正博	病院長補佐 山上 亘彦	事務局長 古田 正	看護部長 加藤 恵里子
	佐々木 淳一	加藤 元彦		
	金子 祐子	本間 康一郎		
	内田 裕之			
	鳴海 覚志			
	朝倉 啓介			

病院長の素顔 Q & A



- Q** どんな子どもだった？
A リスを肩に乗せて散歩するのが夢でした。3度飼い、ひまわりの種をあげて懐いた頃に肩へ乗せたのですが、毎回山へ逃げられてしまいました。
- Q** 大学時代の印象深いことは？
A 肺がん患者に関するレポートで、皆が治療法などを中心に書く中、私だけが患者さんから伺った人生観に焦点を当てまとめました。担当の先生にその着眼点を褒められたことを、今でもよく覚えています。
- Q** スポーツ歴は？
A 学生時代は剣道部で、ハーバード大学の研究室にいた頃に子どもと一緒に空手を始めて黒帯を取りました。
- Q** 最近ハマっていることは？
A Spotifyで音楽を聴くことです。推しは藤井風さん。新進気鋭の天才だと思っています。



肺がん治療の現状

慶應義塾大学病院では、肺がん診療に携わる呼吸器内科・呼吸器外科と、がんゲノムセンターの医師が緊密に連携し、患者さん一人ひとりに合わせた「がんゲノム医療」を積極的に行っています。

ここでは、肺がん診療の流れを簡単に紹介するとともに、当院で行っている肺がんゲノム医療について紹介します。

がんは日本における最大の死亡原因となっています。中でも肺がんは、年間死亡者数が1位のがんです。非常に治療に難渋するがんのひとつですが、2000年頃より画期的な診断・治療法が続々と開発されてきています。

早期の肺がんでは、がんが肺の局所にある場合は、手術や放射線治療が有効な治療法となります。しかし、病状が進みががが他の臓器やリンパ節に広がっている場合は、いわゆる抗がん剤を用いた治療が標準的に行われる治療法になります。

治療薬の種類と分子標的治療の可能性

現在、抗がん剤には大きく分けて3種類のジャンルの薬剤があります。ひとつ目の薬剤は、従来からある活発に増殖をする細胞を標的とした薬剤で「細胞障害性抗がん剤」といわれます。2つ目の薬剤は、2000年代から盛んに開発されてきた「分子標的治療薬」というジャンルの薬剤です。分子標的治療薬はその名の通り、がん細胞の特定の分子をねらった薬剤です。がん細胞に



肺がんゲノム医療

～ 一人でも多くの肺がん患者さんにごんゲノム医療を ～



おける特定の分子のみを障害するため、細胞障害性抗がん剤に比べて副作用が出にくいとされています。最後3つ目の薬剤は、「がん免疫チェックポイント阻害薬」というジャンルの薬剤です。これは、がんを排除しようとする免疫の力を強化する薬剤です。

これら3つのジャンルの薬剤は、肺がんのみならず多くのがんで盛んに使用されています。なかでも、分子標的治療薬による治療は、有効な治療標的があった場合、劇的に効果を発揮する薬剤です。これら分子標的治療薬が使用できるかどうかは、患者さんごとの肺がんの遺伝子の異常（遺伝子変異）の状態を見て決定します。具体的には、例えばある患者さんの肺がん細胞が持つ遺伝子を調べて、EGFRという遺伝子に遺伝子変異があった場合は、EGFRを標的とした薬剤が有効になります。

がんゲノム検査とは？

このような有効な分子標的治療薬による治療をなるべく多くの患者さん



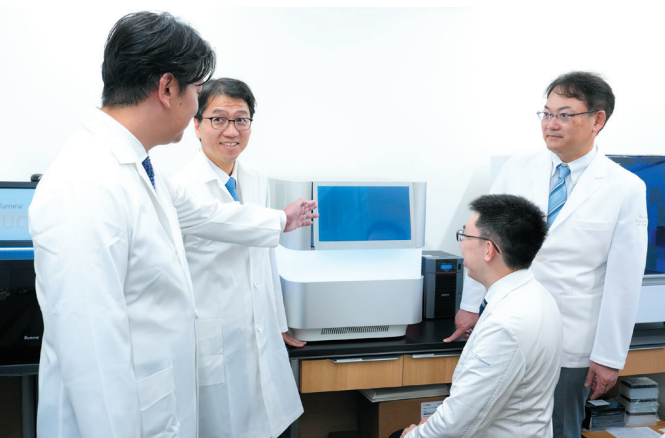
んに届けるためには、個々の患者さんで肺がんの遺伝子変異検査を詳細に、かつ、くまなく見ることが大事になってきます。通常の保険診療では、肺がんが診断された際に10個程度の代表的な遺伝子に関する検査が行われてきました。

近年、この分子標的治療薬の有効性が広く認識される中で、標準治療が終了あるいは終了見込みの患者さんに対しては、診断時に行った10個程度の代表的な遺伝子に関する検査のみならず、がんに関わる数百個に

も及ぶ遺伝子の詳細な検査（がんゲノム検査）を保険診療で行うことが可能になりました。これを行うことで、従来の保険診療では見つけることができなかった遺伝子変異を見つけた治療を受けられる患者さんが増えてきています。このように、がんゲノム検査は、個々の患者さんの肺がんの特徴を理解するとともに、治療に直結する情報が得られる可能性がある有用な検査です。

「がんゲノム中核拠点」として

当院は、がんゲノム医療を推進するために国が設置した「がんゲノム中核拠点」のひとつとなっており、肺がんを含む多くのがん患者さんにがんゲノム医療を提供できる体制が構築できています。しかし保険診療でのがんゲノム検査（遺伝子パネル検査）は原則1回、かつ実施するタイミングにも制限があり、必ずしも肺がん患者さん全員に最適な治療を届けることができません。そこで当院で



は必要な時にいつでも実施できる「自費診療でのがんゲノム検査」や臨床研究の枠組みを活用して、一人でも多くの患者さんに個別化治療を届けられる診療体制を構築しています。今後、がん医療の発展に伴い、がんゲノム検査の重要性も層増してくると思われま。当院でも、さまざまなアプローチを用いて「がんゲノム検査」を実践し、肺がんの医療進歩に貢献していきたいと考えています。

病院で働くロボットたち

慶應義塾大学病院は、2018年10月に内閣府の戦略的イノベーション創造プログラム「AI（人工知能）ホスピタルによる高度診断・治療システム」に採択され、IT化・AI化を推進しています。医師や看護師、メディカルスタッフだけではなく、さまざまな機器やシステムが医療現場を支えています。今回は、病院内で医療スタッフの一員として働くロボットたちをご紹介します。

車いす型自動運転サービス「Ami(アミ)」



1号館、2号館の4箇所に、院内を快適に移動していただけるよう、どなたでも利用可能な車いす型の自動運転サービスをご用意しています。乗車時に行き先を選択し、到着後は降りだけです。簡単な操作で乗車可能です。どうぞご利用ください。

モノ搬送ロボット「FORRO(フォロ)」



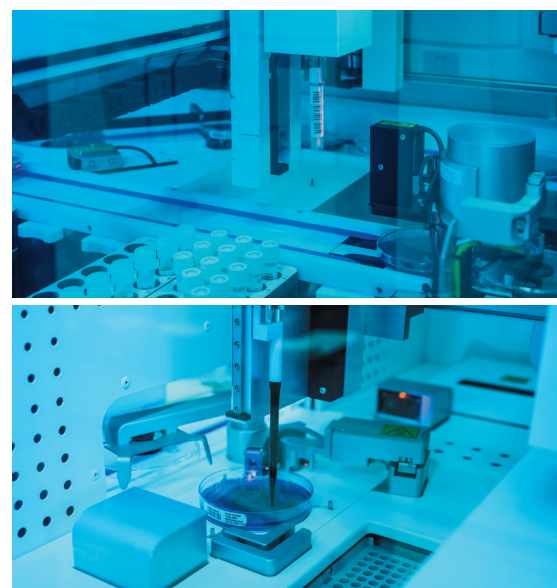
入院患者さんの尿、血液などの検体や薬剤の搬送のために院内を歩き回っているロボットが2台います。エレベータの乗降やセキュリティドアも通行し、24時間365日体制で稼働しています。温かく見守ってください。

お薬ピッキングロボット「ロボピックⅡ」



薬剤部では、薬品の払い出しを自動で行うロボットが活躍しています。医師の処方に従って薬を正確に準備し、薬剤師が確認を行います。ロボットの導入により、調剤時間の短縮や取り違いの防止につながり、薬剤師は患者さんへの説明や使い方の確認、飲み合わせや副作用の相談などに、これまで以上に時間をかけられるようになりました。

全自動細菌培養検査ロボット



細菌を調べる微生物検査の現場でも、実はロボットが活躍しています。検体を機械にセットすると、あとは検査技師の指示に従い機械が培養検査を進めてくれます！

最新情報はこちら▶
<https://www.hosp.keio.ac.jp/about/feature/aihospital/>



～患者さんに優しい、心の通った医療・看護を目指して～

ユマニチュード®の実践

研修の場面



体を起こす練習



端座位を介助する練習



おむつ交換の練習

ユマニチュード®の実践場面



しっかりと目と目を合わせて対話

6人のインストラクター



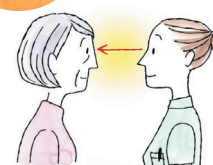
当院は、小さなお子様からご高齢の方まで幅広い患者さんに高度急性期医療を提供しています。その中で大切にしているのが、「ひと」の尊厳を大事にした、科学的な根拠に基づいたユマニチュードケアの実践です。ユマニチュードは、“見る・話す・触れる・立つ”という4つの柱を基本とし、患者さんと良い関係性を築きながら患者さんの回復力を活かす技法です。

実際に、“立つ”ことで笑顔になりリハビリに意欲を示されたり、反応が乏しかった患者さんが目を開いて「ありがとう」と話されるなど、良い変化がみられています。2024年度、当院に6人のインストラクターが誕生しました。さらにケアを拡げより良い看護実践を目指します。

【ユマニチュード®4つの柱】

「あなたを大切に思っています」ということを相手がわかるように伝える技術

見る



正面から・水平に・近く・長く

触れる



広い面積・ゆっくり・包み込むように

話す



穏やかに・低めのトーン・ゆっくりと

立つ



できるだけ立つ時間をつくる

患者サロン

がん患者さん・ご家族を対象に「患者サロン」を開催しています。講義に加えて、スタッフ・参加者同士の情報交換を行っています。Zoom・会場での参加可能です。皆様のご参加をお待ちしています。

【2025年度開催予定】

第4回 2026年1月23日（金）17時30分～18時30分
「テーマ：仕事と治療を両立するには」（ハイブリッド開催）



▲最新情報は
こちらからご
確認ください

病院の草木のご紹介（晩秋）

当院では、快適で癒しのある環境づくりの一環として、多彩な植物による緑化・植栽を行っています。晩秋に



は、正面玄関付近にあるけやきが赤や黄色に色づき、ツバキが黄色い花を咲かせます。色づいた草木が、病院で過ごす日々の中に季節の移ろいを感じさせ、心にやさしいひとときをもたらしてくれます。



▲詳細はこちら
(病院ウェブサイト
「得するシリーズ」)

慶應義塾大学 医療共同公開講座シリーズ

第2回「知って得する薬の副作用－気にしていますか？腎臓のこと－」

都内近郊にお住まいの一般の方に自由に受講していただける無料の公開講座です。皆様のご参加をお待ちしています。※事前申し込みは不要です。



▲最新情報は
こちらからご
確認ください

日時 2025年12月13日（土）14時～15時（開場13時30分）
場所 慶應義塾大学信濃町キャンパス 北里講堂
主催 慶應義塾大学病院 神経内科・薬剤部

KOMPASのご案内

KOMPAS（コンパス:Keio HOsPital inforMation & Patient Assistance Service）は、当院の医師・医療専門家が病気や検査、薬などのさまざまなトピックを患者さんや一般の方向けにわかりやすく解説した、当院オリジナルのウェブコンテンツです。本学の医学研究と当院の最近の取り組みを紹介する記事を定期的に掲載しています。スマートフォンやパソコンからご利用いただけ、病名などで記事を検索することもできます。2025年3月のリニューアルを経て装い新たに使いやすくなったKOMPASをぜひご活用ください。



▲最新情報は
こちらからご
確認ください



アンケートにご協力ください

こちらのQRコードからアンケートにアクセスしていただき、広報誌すゝめで読んでみたい記事など、ぜひご意見をお聞かせください。



COLUMN

東京2025世界陸上選手権大会への協力



2025年9月、国立競技場を中心に開催された東京2025世界陸上に、当院は大会指定病院として協力し、選手・スタッフ・大会関係者等、さまざまな症状の患者さんの救急対応を行いました。また、観客・マスコミ関係者等の体調不良者を対象としたスタジアム側の医務室運営にも当院の医師が中心となって関わり、現場で多数の診察・治療にあたりました。

当院は2021年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピックにおいても医療支援を実施しており、その際のさまざまな準備と経験を活かし、60万人を超える観客を動員した本イベントにおいても、確実な医療支援を行うことができました。

〈受付時間・休診日〉

外来診療時間 8時40分～12時00分、13時00分～16時00分
面会時間 ※面会は医療上必要な場合に制限させていただいております。
詳しくは病院のウェブサイトをご覧ください。
休診日 日曜日、第1・3土曜日／国民の祝日・休日／年末年始（12月30日～1月4日）
2026年2月11日（水・祝）は外来診療日です。

〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと診療担当医表がご覧になれます。なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

